

担任必携

学級・学校文化を創る

特別活動

中学校編

学級活動の基本

話し合い活動を中心にして



学級・学校文化を創る「特別活動」

学校教育の
基盤的な役割を果たします。



- 人格的, 社会的な自立を培う「特別活動」
- 自主的, 実践的な態度を育む「特別活動」
- 魅力ある学級・学校づくりを実現する「特別活動」
- 学級経営や学業指導※, 進路指導としての「特別活動」

- 集団活動を通して個を鍛える「特別活動」
- 中学生期の教育課題に向き合う「特別活動」
- 人間関係や豊かな人間性を育てる「特別活動」
- 問題解決に関わる実践的な指導力を高める「特別活動」

教師に求められる
教育観を磨きます。

※学業指導とは、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助していくことです。

我が国の学校教育を特徴付ける
教育活動としての「特別活動」

【本冊子の特徴】

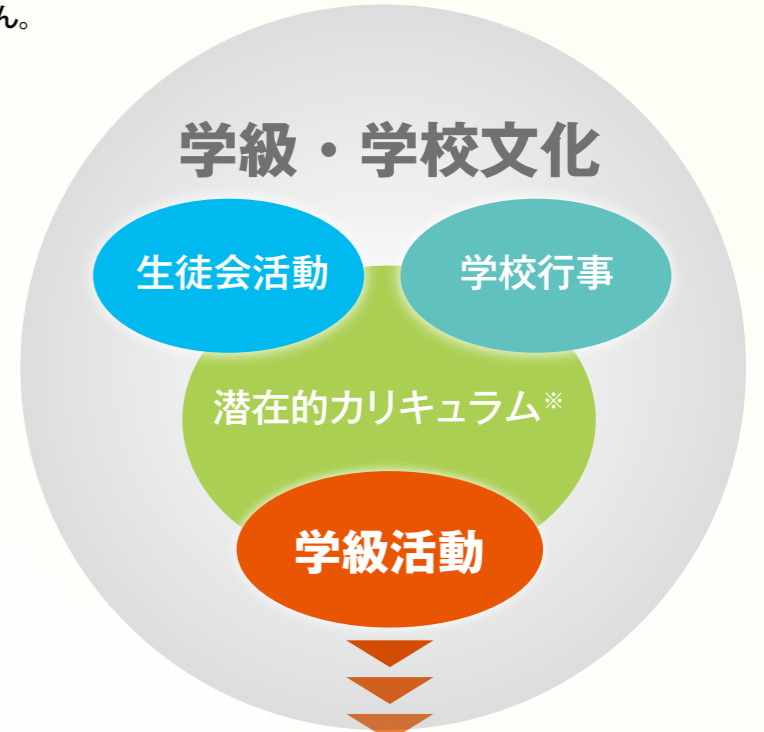
学級活動・話し合い活動に焦点化

学級・学校文化を創造する特別活動 (学級活動 生徒会活動 学校行事)

望ましい人間関係づくり, 学習や生活へのよりよい方向付けと健康や安全を確保する学級経営は, 学級活動と密接に関連しています。また, 教科担任制となる中学校において, 担任の先生方が学級集団に関わる機会は限られているからこそ, 学級活動を大事にしなくてはなりません。

本冊子では, 担任の先生方に活用いただくことを想定し, 特別活動の中でも学級活動に焦点化を図りました。

さらに, 互いの意見の違いを超え, よさを生かしながら合意形成を図ったり, 効果的に自己決定につなげたりする話し合い活動を特に意識して編集しました。



もくじ

学級活動は学級経営の要 3

「話し合い活動」のすすめ 5

事例 1 学級生活を見直そう (学級活動(1)ア) 7
いじめや暴力のない学級・学校づくり

事例 2 自分に合った学習方法を考えよう (学級活動(3)イ) 9
学習意欲の向上

学級活動指導案作成の基本 11

特別活動Q&A 13

教師を育て, 生徒を生かす教育活動として 15
(校長先生, 副校長先生, 教頭先生へ)

※潜在的カリキュラムとは, 校風や校則, 地域と連携した授業や行事の進め方や教育観などと, 生徒たちの相互の集団形成や班や係など学級固有の活動が内容として挙げられる。

学級活動は学級経営の要^{かなめ}

学級の様子を確認してみましょう

学級活動が教師主体になっていませんか。

- 係活動や当番活動が活発になるような工夫をしていますか。
- 常に学級目標を意識した活動が展開されていますか。

学級活動で大事にしたいこと

- 学級目標の実現に向け、組織や取組の見直しを大事にしましょう。
- 係活動や行事等の実施に当たっては、入念に準備し、生徒の自主的、実践的な活動を大事にしましょう。

「体験あって学びなし」
体験や学びがその場限りになっていませんか。

- 体験活動の評価はどのように行われていますか。
- 「楽しかった」という事後の感想に満足していませんか。

学級活動で大事にしたいこと

- 個々の生徒が受けた感動を、学級の共通体験にできるように、生徒への問い掛けを大事にしましょう。
- 体験を通して得られる新しい自分の発見など、向上心につながる“変化”の感覚を実感させましょう。

学級のルールが、教師の決めたものばかりになっていませんか。

- 学級（集団）で意思決定したことに対する生徒の取組状況はどうですか。
- 共感的な人間関係が育ち、学級が居心地のよい場所になっていますか。
- 学級において、ルールは守られていますか。

学級活動で大事にしたいこと

- 問題の発見と共有から始まるプロセスを大事にしましょう。
- 集団による意思決定についての丁寧な指導をしましょう。
- 他者の存在を意識させ、規範意識の醸成につなげましょう。

意見の違いを超え、望ましい人間関係につなぐ 話し合い活動

自主的・実践的な態度を育みます

自己成長の自覚を促し、向上心を育みます

共感と秩序のある集団を育てます

学級活動でつなぐ生徒会活動と学校行事

生徒会活動と学校行事においても、学級での話し合い活動を通じて、生徒は参画し、振り返り、社会的実践力を身に付けていくこととなります。



「朝の会」と「帰りの会」での話し合い、聴き合い

学校生活の一日の始まりと終わりにある朝の会や帰りの会などは、学級経営の重要なポイントとなる一コマです。こんな実践（例）が学級経営に生きています。

- 役割体験によって自己存在感を高める当番制の司会
- 表現力やコミュニケーション能力の向上を図る「1分間スピーチ」
- 個と集団の行動目標を明らかにし、心の成長を促す担任等の逸話

学校行事の「つながり」を大切に、生徒の意欲を高める

福岡県大牟田市立田隈中学校では、「LINK ～つなげよう 田隈のおもいとありがとう～」が生徒会テーマです。

年間を通じて、文化的行事と学級活動をつなぎ、取組を単発に終わらせないために「学校行事カード」による振り返りを常に行うなどの工夫が随所に見られます。振り返りと次の活動への集団（自己）決定は、生徒自らによるPDCAサイクルとなっています。



「話し合い活動」のすすめ

話し合い活動の内容は？

学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」や生徒会活動等では、**よりよい生活**を築くために**集団としての意見**をまとめたり、生徒たちで適切な決まりをつくらたりする**話し合い活動**が考えられます。

学級活動(2)「適応と成長及び健康安全」や **学級活動(3)**「学業と進路」では、**個人として**の問題解決に向けた**目標や方法・内容**などを生徒自身で決定するための**話し合い活動**が考えられます。

「話し合い活動」を充実させると・・・

よりよい人間関係を築く力、協力して集団の生活を充実・向上させようとする態度、当面する課題に主体的に関わろうとする態度、社会に参画する態度や自治的能力などをよりよく育てることができます。

話し合い活動のポイント

- 指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにします。
- 一人一人の生徒が、目的意識や問題意識を明確にして話し合い活動に取り組むことができるように、事前の活動や指導を丁寧に進めるとともに、決まったことの実践化を図ることを重視します。
- 小学校の学級活動や児童会活動で身に付けた話し合い活動に関する議題の選択、話し合いの方法、役割分担などの経験を生かすことができるようにします。

話し合い活動の基本的な活動過程(学級活動の例)

学級集団や一人一人の生徒の実態・教師の指導目標等

1 事前の指導と生徒の活動

2 本時の活動

3 事後の指導と生徒の活動

集団としての意思決定を進める自発的、自治的な活動の形態

問題の発見

- 生徒が、よりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見付け、提案する。

議題の決定

- 共同で取り組む問題(活動)を決めて、問題意識を共有化する。
- 問題を解決するために全員で話し合う「議題」を決める。

計画の作成 問題の意識化

- 話し合いの柱や順番など、話し合い活動の計画を立てる。
- 話し合うことについて考えたり情報を集めたりして一人一人が問題意識をもつ。

集団としての意見をもつ 話し合い活動

- 提案理由を理解する。
- 改善に向けた意見の交換をする。
- 多様な意見を生かして**集団決定**する。

実践・振り返り

- 集団決定したことを基に、役割を分担し、全員で協力して実践する。
- 活動の過程や成果について、目標を基に振り返る。

次の活動へ

学級活動委員会*の組織を生かして、事前の活動や話し合い活動の準備を行うとよいでしょう。

※学級活動委員会

学級活動を生徒の活動とするために、教師の適切な指導の下、学級活動の計画を立てたり、役割分担を決めたりするなど、実践するまでの準備等を行う組織である。独自の名称を使っているところも見られる。

主として **学級活動(1)** での話し合い活動の形態
例えば学級としての目標を設定したり、その目標を達成するための具体的な方法や役割の分担を検討したりすることなどが考えられます。「生徒たちで話し合い、決めて、実践する」という経験を積み重ねていきましょう。

POINT

- 生徒会活動や学校行事における各種の実行委員会等の自発的、自治的な話し合い活動においては、学級活動の活動過程を基にしつつ、それぞれの活動内容の特質に応じた活動過程で指導します。
- 生徒総会等で学校や学年全体の意見をまとめる場合には、各学級における話し合い活動を充実させて意見を集約できるようにすることが大切です。

個人として、自己の生き方を選択し行動していく自主的、実践的な活動の形態

主として **学級活動(2)** **学級活動(3)** での話し合い活動の形態

「自己決定したことを責任をもって実行(実践)する」という経験を積み重ねていきましょう。

問題の確認 (題材の決定)

- 問題を確認するために必要な活動を行う。
- 教師が、年間指導計画に基づいて取り上げる問題についての生徒の実態を確認し、題材を決定する。

活動テーマ等の決定

- 学級活動委員会の組織を生かして活動テーマを設定したり、活動計画を立てたりする。

計画の作成 問題の意識化

- 問題について考えたり調べたりして問題意識をもつ。
- 教師は指導計画を立て、事前調査や資料作成をする。

個人として 問題解決の方法を決める 話し合い活動

- 問題の状況や原因を把握する。
- 解決方法などについて話し合う。
- 目標、解決方法、内容等を**自己決定**する。

実践・振り返り

- 自己決定したことを基に実践する。
- 実践の過程と成果について、目標を基に振り返る。

次の活動へ

TOPICS

切実感あるテーマ設定は生活や社会に直結する

栃木県那須塩原市立日新中学校では、話し合い活動において「切実感ある活動テーマ設定」が適切に行われています。2学年では「SNSの活用について考えよう」と、社会問題となっているテーマに積極的に取り組みました。また、1学年では「新入生(6年生)にクリスマスプレゼントを贈ろう!」を設定し、1年間の自分を振り返り、今の生活を見直す過程を通じ、中学入学前に不安を感じている後輩たちに学校紹介DVDやカレンダーをプレゼントしました。「切実感ある活動テーマ」は生活や社会に直結しており、学ぶ意義の確認につながるものです。

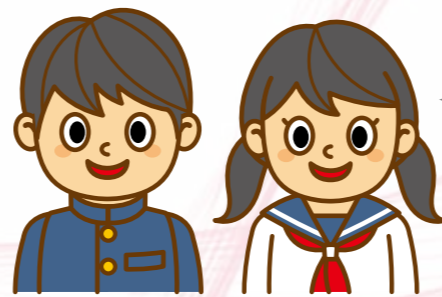


POINT

- **学級活動(2)** **学級活動(3)** には様々な内容があります。内容の特質に応じて、小グループの話し合いやパネルディスカッション、ロールプレイング、調査活動等を取り入れるなど、活動方法を工夫することが大切です。

学級生活を見直そう (学級活動(1)ア)

「学級や学校の生活づくり」や生徒会活動等では、よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめたり、生徒たちで適切な決まりをついたりする話し合い活動を大切にしたいものです。



「居心地のよい学級にしたい」

このような現状がありませんか？

- 人の嫌がることを言ったり行ったりする生徒がいる。
- 望ましい人間関係を築けず、学級がまとまらない。
- 挨拶ができない生徒がいる。
- 掃除や給食当番、係活動などをやらない生徒がいる。
- 学級や学校の決まりやルールが守れない生徒がいる。

いじめや暴力のない学級・学校づくり

生徒一人一人に自分や他者を大事に思う気持ちをもたせ、いじめや暴力のない、みんなが居心地のよい学級・学校づくりをしましょう。

① 事前の指導と生徒の活動

問題の発見

- アンケートを実施して生徒の実態を把握します。
 - ▶自分の生活を振り返るアンケートを実施して実態把握をしましょう。[朝の会や帰りの会 学級全体]

生活を振り返るアンケート調査(例)

生活を振り返るアンケート

a 当てはまる b だいたい当てはまる c あまり当てはまらない d 当てはまらない

① 人の嫌がることを言ったり、やったりすることがありますか。
a b c d

② 人の嫌がることを言われたり、やられたりすることがありますか。
a b c d

③ 学級や学校の友達とよい関係をつくれていますか。
a b c d

- アンケート結果を基に、学級の問題について考えます。

議題の決定

- 教師は適切な指導を行いつつ、生徒とともに議題を選定します。[学級活動委員会など]

計画の作成・問題の意識化

- 学級活動委員会を実施して、学級活動の計画を立てます。[放課後]

- ①アンケートの作成や集計は、学級活動委員会により主体的に活動させましょう。
- ②アンケートの結果から提案理由を検討しましょう。
- ③学級活動の流れや役割を確認しましょう。

※生徒にアンケートの集計をさせる際には、プライバシー等に十分気を付けましょう。



学級活動委員会(調査の集計作業)

- 本時の予告をし、話し合い活動に向けての意欲付けを図ります。[帰りの会 学級全体]

TOPICS 「整理された板書」こそ合意形成のカギ



→楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動小学校編参照

② 本時の活動(集団としての意見をまとめる話し合い活動)

問題意識の共有

- 学級全体で問題を共有します。
- 提案理由を理解します。
 - ▶学級活動委員会がアンケートの結果を発表し、学級の実態を共有しましょう。

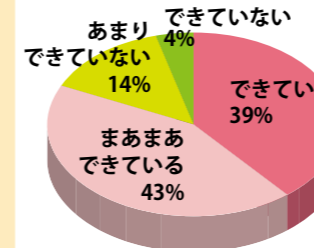
POINT

担任から、本時の意義やねらいなどについて話す際にいじめの定義や法律などにも触れるようにしましょう。

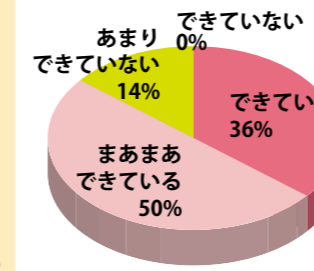
POINT

アンケートの結果を右図のように可視化しましょう。

自分がやられて嫌なことは人にはやりません



先生や友達に挨拶ができます



問題意識解決に向けた話し合い活動

- 生活の改善方法について話し合います。
 - ▶生活の改善方法について、学級全体で話し合しましょう。

POINT

できるだけ多くの生徒から意見を引出す手立て等について、あらかじめ司会を中心に考えさせておきましょう。

POINT

いじめや暴力のない学級づくりを意識して話し合わせましょう。

- 話し合いによりまとまった意見
- 自分から進んで挨拶をする。
 - 帰りの会で一日を振り返る。
 - 学級の合言葉をつくる。
 - 感謝の言葉を伝える。



人権標語

つなげよう人と人とのきずなをね
〇〇中学校2年組

集団決定

- 「自分の人権標語」づくり
 - ▶話し合いによりまとまった意見を基に「学級の人権標語」をつくりましょう。
- 「学級の人権標語」づくり
 - ▶学級の代表となる人権標語を学級全体で選びましょう。
- 帰りの会での「いごこち点検」の実施
 - ▶帰りの会などで学級での居心地をセルフチェックさせてみましょう

③ 事後の指導と生徒の活動

実践・振り返り

- 実践しましょう
 - ▶自分でつくった人権標語を基に、「学級の人権標語」を作成します。
- 評価しましょう
 - ▶話し合いでまとめた四つの意見を実践しているか、自己評価カードなどを活用して振り返る機会を設けましょう。
 - ▶話し合った過程についても評価しましょう。

生徒会活動との関連

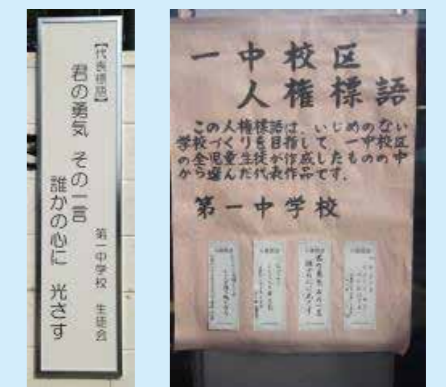
- 学年や学校としての代表人権標語を作成します。
 - ▶各学年で人権標語を選んだり、学校としての代表人権標語を選んだりしましょう。

POINT

いじめや暴力のない学校づくりを目指してインパクトのある心に響く人権標語を選びましょう。

- 校内や地域に掲示します。

- ▶校舎内はもとより、校門や公共施設の掲示板など、広く地域にも掲示して、学校の活動の理解を広げましょう。



校門脇に掲示 地域の掲示板に掲示

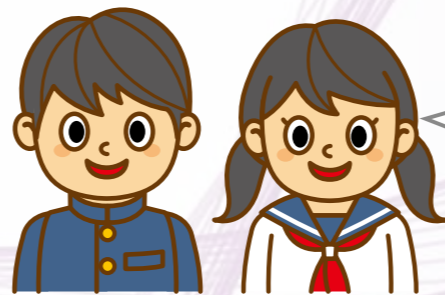
- 各種の委員会等による活動

- 生徒会本部役員による挨拶運動
- 放送委員会による校内放送での呼び掛け
- 美化委員会による美化コンクールやポスターコンクール

自分に合った 学習方法を考えよう

(学級活動(3)イ)

学級活動(2)「適応と成長及び健康安全」や学級活動(3)「学業と進路」では、個人として問題解決に向けた目標や方法・内容などを生徒自身で決定するための話し合い活動を大切にしたいものです。



「勉強する意欲が湧かない…」
「家庭学習で、何をどう勉強したらいいか 分からない…」

このような現状がありませんか？

- 学級内で生徒同士が学び合う雰囲気を感じない。
- 学習意欲が高い生徒と低い生徒の二極化が見られる。
- 家庭学習の習慣化が図られていない。

学習意欲の向上

学習方法について互いに意見交換を行いながら、生徒一人一人が自分に合った学習方法を考え、学習意欲を高めて、その後の学習方法に生かしましょう。

① 事前の指導と生徒の活動

問題の確認(題材の決定)

- アンケートを実施して生徒の実態を把握します。

▶ 学習に関するアンケート調査をしましょう。
[朝の会や帰りの会 学級全体]

学習に関するアンケート 名前 _____

① 自分の家庭学習(勉強)を振り返って、当てはまるものに○を付けてください。

大変簡単	簡単	できていない	全くできていない
4	3	2	1

② ①で2・1と答えた人、その原因は何だと思いますか？

③ ①で2・1と答えた人、その原因を解決するためにどんな努力をしていますか？
(努力をしている ・ 努力をしていない)

④ ①で4・3と答えた人、何を心掛けていますか？

⑤ 自分の家庭学習に関する課題は何だと思いますか？一つ挙げてください。

⑥ 学級の中で学習方法について聞いてみたい人を挙げてください。

学習に関する
アンケート調査(例)

- 教師が、個々の生徒が共通に解決すべき問題として「題材」を決めます。

活動テーマ等の決定

- アンケート調査の集計を行い、活動テーマを設定します。[放課後 学級活動委員会]

計画の作成・問題の意識化

- 学級活動反省会を実施して、学級活動の計画を立てます。
 - ▶ 学級活動の流れを検討します。[放課後 学級活動委員会]
 - ▶ パネリストの発言内容等について検討します。[放課後 学級活動委員会]
- 本時の予告をし、テーマへの意欲付けを図ります。[帰りの会 学級全体]



TOPICS

「生徒指導の推進」「学習意欲の向上」「自己肯定感の醸成」に効果

茨城県牛久市立下根中学校では、話し合い活動の取組を全ての教科と領域に広がっています。小学校で行われている「コの字型の座席」や「小グループ」での話し合いや学び合いが授業の基本形態になっています。教師や生徒たちは学習内容についての小さなつづきを大切に、話し合いによって多様な見方や考え方があることを学んでいます。「この取組によって授業は自分たちのつくるもの、楽しいものに変化し、学習意欲の向上はもちろん、生徒指導上の問題が激減しました。また、話し合い、聴き合う姿勢はコミュニケーション能力の向上と自己肯定感の醸成につながりました。」(藤ヶ崎校長)

② 本時の活動(個人として問題 解決の方法を決める話し合い活動)

問題意識の共有

- 学級全体で問題意識の共有化を図ります。

▶ アンケート調査結果の発表



POINT

- 共通の問題を可視化しましょう。
- アンケート調査結果から、多様な意見が出るように指導しましょう。

共通の問題(アンケートより)

- ① 何をどのように勉強したらよいか分からない
- ② 勉強する気持ちが起らない

問題解決に向けた話し合い活動(学 級全体→小グループ)

- 集団思考を深める話し合いの工夫を行います。

▶ パネルディスカッションを用いた 話し合い



POINT

- 本事例では、アンケート結果により選ばれた生徒がパネリストとなり、話し合いを行います。

▶ 小グループによる話し合い



POINT

- 本事例では、小グループを固定せず、多様な意見を聞くことができるようにしましょう。
注) P14 Q5参照

- 多様な意見を引き出し、自己決定につなげます。

自己決定

▶ 各自が行う方法の決定

自己決定した内容(Aさんの例)

「○○さんのように、苦手な数学を勉強するときは、問題を読みながら図で表したり、10分休憩を入れたり、繰り返し計算を解いたりして効率よく勉強したい」



指導のポイント

教科の学習に関する悩みは個人の問題ですが、学級活動でこのような事例を実践することで、学級の学び合う風土を醸成したり、互いに高め合おうとする望ましい人間関係を築いたりするなど、学業指導を行うことができます。

このように、学級活動を通して、生徒にとって“学級”という生活集団を学習集団に高めていくことで確かな学力の定着を図ることも期待できます。

③ 事後の指導と生徒の活動

実践・振り返り

- 実践と振り返りを大切にします。

- ▶ 毎日の朝の会で各自が自分で決めた学習方法を確実に実践しているかどうか、自己評価カードに記入させましょう。
- ▶ 生徒の取組の様子を学級通信などを使って保護者へ伝えるとともに、家庭学習の充実について家庭の協力を呼び掛けます。
- ▶ 試験前の学習計画に関連付けて実践させましょう。
- ▶ 活動過程と成果について、振り返らせましょう。

次の活動へ

- 年間指導計画に沿って、次の活動につなげます。
 - ▶ 生徒が自分のよさに気付き、伸ばそうという意欲をもてるように「自分のよさの発見」「進路に応じた学習機会の選択」等の題材を設定し、学級活動を行います。

POINT

実生活に結び付けた事後の指導を徹底します。

- 本事例では、自己の実践目標に対して、自己評価、総合評価の実施するとともに、事後の生活について教師が見届けます。また、家庭との連携も重要になります。

■ 本実践における評価のポイント ■

- 共通の問題について、自分自身の問題として受け止め、関心をもって話し合い活動に取り組んでいるかどうかについて確認します。
- 多様な意見を聞き、考え、判断し、自分で決めたことについて、実践できているかどうかについて確認します。

本実践を振り返って (生徒の感想)

- ○○組の授業に臨む全体の雰囲気がよりよくなった。
- 苦手な教科も勉強してみようと思い、試験までの2週間に取り組んだら、成果が出てうれしかった。これからも続けたい。



- ○○さんの学習方法を聞いて、やってみたら、勉強がはかどった。○○さんに感謝。

学級活動指導案作成の基本

指導案（略案）を書くことにより、先生自身の思考が整理され、生徒の姿や活動の流れがより明確になるはず。

事前の指導と生徒の活動
(学級活動委員会)



本時の活動
(自発的、自治的な活動例)



事後の指導と生徒の活動
(実践)



学級活動指導案の特色

学級活動は、生徒の自主的、実践的な活動を基盤としていることから、その指導案は、次のような点において、教科の指導案とは異なる性質をもっています。

A

生徒の司会や記録など生徒のこれまでの活動を基に展開される本時の活動である。したがって、指導案には生徒の活動過程が示される必要があります。

B

生徒の本時の活動は、事前と事後という一連の流れの中に位置していることから、「事前の指導と生徒の活動」及び「事後の指導と生徒の活動」も1単位時間の指導案に明示する必要があります。

C

指導案は、教師の指導構想であるとともに、生徒の自主的な活動を助長する観点から、生徒が作成する活動計画のよりどころとしての役割をもちます。

学級活動指導案作成の留意事項

学級活動のねらいの実現を目指し、生徒の活動を構想しながら指導案を作成する際の留意事項として、次のようなものが考えられます。

D

題材に関する一人一人の生徒や学級の実態、自主的な活動の経験（質的な状況等）を把握する。それを踏まえて課題解決を通して、目指す生徒の姿や学級の姿を明らかにします。

E

題材のねらいや活動内容の特質から生徒の活動形態（自発的、自治的な活動形態、自主的、実践的な活動形態）を選択するとともにどのような能力や態度を育てるのかを明確にします。

F

指導のねらいの実現状況を把握し、指導の改善に生かすための学習評価の計画を明らかにします。

学級活動指導案の例

学級活動（1）の例

第1学年2組 学級活動指導案

平成25年〇月〇日（〇）第〇校時
指導者 〇〇 〇〇〇

1 題材 「体育祭への参加」

題材に関する生徒や学級の実態を記す。**D** など

2 題材について
(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく活発で何事にも誠実に取り組もうとする生徒が多い。…（略）…
互いを認め合って尊重し合う態度に欠けているところもあり、…（略）…
これらは互いを思いやり、認め合う、また自分らしさを発揮しながら、多様な人間関係を築く経験の少なさによるものと考えられる。
そこで、年度当初より楽しく豊かな、望ましい人間関係を築く充実した生活を送る基盤となる学級づくりに話し合い活動を中心に様々な方法で取り組んできた。…（以下略）

実態を踏まえたこれまでの指導の経緯等を記す。**B** など

本時で目指す生徒や学級の変容等の概略、教師の構想や指導観を記す。**DE** など

(2) 題材設定の理由

中学校の生活に慣れ、人間関係も落ち着く1年生のこの時期は、一方で不安定な時期でもある。ささいなことや悩みとなり、人間関係の軋轢等から学校生活全体に曇りがちが見られることもある。…（略）… 1学期の生活上の課題を明確にし、2学期につなげていくために、1学期末に以下のアンケートを実施した。…（略）…
…（略）… これを解決するためには、学級全体で話し合っ「互いを思いやり、いろいろな人と関わり合う」活動が不可欠である。…（略）…
そこで、…（略）… このような課題をよりよく解決していきたいと考え、本題材を設定した。

題材の意義（設定の趣旨）等を記す。

学級担任としての思いや願い、題材を捉える視点等を記す。

3 指導のねらい

- 学級の一員としての自覚を高め、学級に対する所属感や連帯感を深める。
- 互いのよさを認め、支え合いながら協力して実践する態度を育む。

事前・本時・事後の指導や生徒の活動を通して、生徒に身に付けさせたい力や実践的な事項、育てたい力等を箇条書きで記す。**BD** など

4 評価の視点と本実践における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級生活の向上や諸問題の解決に関心をもち、体育祭へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かしながら、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。	体育祭を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、諸問題の解決法について理解している。

各学校で定めた評価の観点や評価規準を記す。**F** など

5 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
略	略	略	略	略
9月10日 (火)	放課後 (学級活動委員会)	・アンケート調査を集計し、課題を選定する。 ・提案理由を練り上げ、本時の活動計画を立て話し合いの柱を検討する。	・生徒の思いを聞きながら、本時の流れなどを検討し、活動の見通しをもてるようにする。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深まるよう自主的、自立的に準備を進めようとしている。 〔観察〕 〔評価カード〕
略	略	略	略	略

学級全体や個の活動計画（調査・資料収集等も含む）や「目指す生徒の姿」を記す。**BD** など

本時の活動で達成を目指す具体的な実践事項や本時を通して獲得を目指す具体的な資質や能力を記す。**E** など

(5) 本時の指導と生徒の活動

ア 課題「学年種目の作戦を考えよう」

イ 本時のねらい

- 体育祭に向けた学級の取組に関心をもち、互いの考えを生かし、合意形成を図る。
- 学級の一員としての自覚を深め、体育祭に向けての活動意欲を高める。

ウ 展開

活動の内容	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿と評価方法
1 開会の言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の発表・確認 4 提案理由の説明	・学級活動委員会が検討された過程、経過を示した上で、本時の概要を学級全体に説明する。 ・提案理由を細くしながら、学級への所属感が深められるような話し合いになるように助言する。	
【提案理由】これまで私たちのクラスは1学期の野外活動体験など、何事にもまもって取り組んできました。しかし、日常生活ではけんかが起こったり、トラブルが起こったりしていました。これはまだお互いのよさを理解できず深まっていなかったことが原因だと思っています。そこで、中学校生活初めての体育祭で行われる学年種目を通して、学級の課題を解決し、クラスのよさを更に深めるためにお互いを認め、支え合い、団結して練習していくことが必要と考え、提案しました。		
5 教師の話		
6 話し合い (1) 学年種目を成功させるための組の作戦を考えよう (2) 役割分担を決めよう	・昨日の練習を踏まえて、様々な角度から考えるように助言する。 ・意見が出にくい場合は、周囲と考える時間を与えるよう助言する。聞くときははっきり聞くよう指導する。 ・提案理由は学級目標によりどこを求められるよう助言する。 ・必要に応じて、積極的に助言を加える。 ・集団決定されたことを受けて、自分は何をどう心掛けるかについてより具体的に記入するよう助言する。	【思考・判断・表現】 ◎提案理由について、互いのよさを生かし合いながら学年種目を成功させるための具体策を考え、理由を示して意見を述べている。 〔観察〕 〔学級活動カード〕

教師としての指導・援助の留意点や評価の観点や目指す生徒の姿、評価方法を記す。

提案理由は話し合いの根拠となります。
①学級の実態 ②話し合う必要性 ③問題の焦点化（「解決したら私たちはこうなる」）などの内容を入れて設定しましょう。

なるべく全ての生徒が経験できるように配慮する。

★学級活動委員会でこのような用紙を活用して、生徒が活動計画を立てたり、事前に学級の生徒全員に配布して一人一人に意見をもちせたりして、本時に臨めるようにしましょう。

【参考】
学級活動カード
(例)

活動のまとめ	7 決定事項の確認 8 自己評価・感想記入 9 教師の話 10 閉会の言葉	・話し合いの流れを方向付けた発言や学級活動委員の活動など賞賛するとともに実践へ向けて活動意欲を高めることができるよう助言する。

活動内容や指導・援助の内容、目指す生徒の姿や評価方法を記す。**F** など

(3) 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
略	略	略	略	略
9月25日 (水)	学級活動 (学級全員)	・活動過程や体育祭当日を振り返り、互いのよさを賞賛するなどしながら今後の学校生活の在り方について考える。	・生徒の活躍について、具体例を示して賞賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	【知識・理解】 ・体育祭の成功に向けて学級で取り組むことの意義について理解している。 〔振り返りカード〕
略	略	略	略	略

6 資料等
(略)

本時で使用する資料等を記す。
(課題や問題発見のための資料、解決方法等の発見や一般化、実践化のための資料 など)

第〇回 学級活動

議題	可会	黒板記録	決定事項
議題			
提案理由			私の実践目標、決意
役割分担 (班)	副可会	ノート記録	
時間	話し合いの順序	担当者	自分の考え・意見
分	1 始めの言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の発表・確認 4 提案理由の説明 5 先生の話		
分	6 話し合い		
分	(1)		
分	(2)		

議題	決定事項
8 決定事項の確認 9 自己評価・感想記入 10 先生の話 11 終わりの言葉	私の実践目標、決意
自己評価（本日の話し合いの反省）	全体を通しての感想
1 学級目標や提案理由に沿って考えられた A・B・C	
2 自分の意見を自分の言葉で発表できた A・B・C	
3 ほかの人の意見を聞いて、生かすことができた A・B・C	
4 決定事項を理解し、活動意欲が高まった A・B・C	

先生方の疑問にお答えします。 特別活動 Q & A

Q 集団としての意見をまとめる話し合い活動はどうやるの？

1 A

集団としての意見をまとめるために学級全員で話し合い活動を行うときには、次の点に注意しましょう。

- ①生徒に課題をもたせるなど事前の準備が必要
- ②生徒による司会進行
- ③話し合い活動の決定事項について実践を伴うようにすること

事前に、学級活動委員会により、議題の選定や活動計画作成、役割分担などを行います。本時においては、提案理由に沿って、生徒の司会進行により話し合いを行います。その中で学級として合意形成を図り、決定した事項について、事後の活動で、互いに協力しながら実践します。事前、本時、事後の一連の活動を通して、学級活動のねらいに迫っていくことになります。その際、小学校における話し合い活動の経験を生かせるように工夫しましょう。

Q 話し合い活動の準備の時間が取れません。どうすればよいの？

2 A

中学校では、部活動などのために、放課後を話し合い活動の準備に充てるのが容易ではありません。一度で準備を終了するのではなく、何日かに分け、短時間の準備を積み重ねるなどの工夫が必要になるでしょう。学級全員に関わることであれば、朝の会や帰りの会をうまく活用しましょう。また、生徒が学年や学級に関わる仕事を優先する曜日や時間を、学校全体で決めることも考えられます。学校としての方針を明確にし、1年生のときからの積み重ねを大切にすることにより、学年が進むにつれ効率的に準備を進めることができるようになることが期待できます。

Q 学級活動は、35週にわたってやる必要があるの？

3 A

中学校学習指導要領の「第1章 総則 第3 授業時数等の取扱い」で、学級活動は年間35週以上にわたって計画することが定められています。各教科等では学習活動の特質に応じ効果的な場合には、これらの授業を特定の期間に行うことができると定められています。教科担任制となる中学校においては学級活動は除かれており、特定の期間にまとめて実施することはできません。

Q 学級活動の内容(1)から(3)までの17の内容は全てやるの？

4 A

1年生から3年生まで、各学年の年間指導計画に、17の内容を全て位置付けなければなりません。ただ単に、均一に取り上げるのではなく、学校や学級の実態に応じて、より多くの時間を掛けて重点的に取り上げる内容を盛り込んだり、必要に応じて内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることもできます。また、3年間(3学年間)の見通しの上に、系統性や発展性に配慮する必要があります。

Q 小グループで話し合うときの工夫や留意点は？

5 A

全体で話し合うことが難しいからといって、安易に小グループで話し合うということは、好ましくありません。以下の点を踏まえた上で、小グループの話し合いを行いましょう。

- 一人一人にしっかりと自分の意見をもたせる。
- 小グループの話し合いにおける進行役の生徒を明確にし、①何を話し合うのか ②それを話し合う理由は何か ③話し合う時間はどのぐらいかなどを確認し、徹底させる。
- できるだけ多く生徒に意見と理由を発表させる工夫をし、一部の生徒の意見だけで決定しない。
- 話し合う内容に応じて、小グループの人数に配慮する。

Q 学級活動、生徒会活動や学校行事で生徒の評価は、どうすればいいの？

6 A

学級活動の年間指導計画を作成する際に、学校として定めた評価の観点の設定を踏まえ、評価の場や時期、方法を定めます。時間割に位置付けられた学級活動の時間だけでなく、朝の会等を活用して行う事前の活動や事後の振り返りの活動においても、評価の場の設定は可能です。また、学級活動の1単位時間の中で全ての観点の評価を行う必要はありません。

生徒会活動や学校行事では、学級担任以外の教師が指導することも多いので、評価に当たっては、評価体制を確立し、学校全体で組織的に取り組む必要があります。国立教育政策研究所教育課程研究センターが作成した「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 特別活動】」に学校全体で取り組む具体例が示されていますので、それらを参考にしましょう。

Q 特別活動と道德教育の関係について教えてください。

7 A

学習指導要領における特別活動の目標には、「心身の調和のとれた発達と個性の伸長」「自主的、実践的な態度」「人間としての生き方についての自覚」「自己を生かす能力」など、道德教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、特別活動は道德教育に大きな役割を果たすことが期待されます。

また、生徒が特別活動における様々な活動において経験した道德的実践を、道德の時間で取り上げることで、道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成することにつながります。

TOPICS

社会の変化や新たな手法を知る

話し合いや発表の手法には次々と新たなものが生まれています。青森県板柳町立板柳中学校ではワールド・カフェ(自由な雰囲気をつくり小グループの席替えをしながら話し合う手法)を用いて生徒が臆ることなく意見を発表し合い、多様な価値の理解から望ましい人間関係の構築につないでいます。東京都武蔵村山市立第一中学校では、ピブリオバトル(定められた発表時間、質問時間を有効に使い、話し合う手法)を用いて話し合い活動の難しさと楽しさを学んでいます。

ワールド・カフェでは、話し合いのグループ編成は4人～5人が妥当とされています。3人以下では意見の多様性に欠け、6人以上では参加の質が落ちるといわれています。民間企業の企画会議などでも同様の工夫が見られます。



学級・学校文化を創る上で、その方向を指示し、学校内外の体制を整備するのは管理職の先生方です。

教師を育て、生徒を生かす教育活動として (校長先生，副校長先生，教頭先生へ)

「社会を生き抜く力」(第2期教育振興基本計画の基本的方向性)を 育成するために

教育課程を充実するために適切な組織となっていますか

現在の校務分掌は、校長が示した学校の教育目標や重点目標を達成するために、最も効果を上げられる組織と分担になっているか見直してみてください。

特別活動の全体目標を達成するためには、学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの内容の充実と互いの関連を図ることが重要です。また、各教科、道徳、総合的な学習の時間等との関連を十分に図る必要もあります。学校の教育目標や重点目標の具現化のために、学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの担当者を校務分掌上のどこに位置付けるのかは重要な問題です。

校務分掌組織は十分に機能していますか

生徒会活動や学校行事の計画、実施が各担当者任せになっていませんか。それでは、目標の達成に向けて、十分な教育効果を生み出すことはあまり期待できないでしょう。

特別活動の全体計画や年間指導計画の作成において、教務主任や教務担当の主幹教諭(以下、教務主任等)が果たす役割は、多岐にわたります。生徒の実態に十分配慮し、効果的な全体計画や年間指導計画を作成しなければなりません。

生徒会活動を例にすれば、教育課程の充実のためには、生徒会活動の全体の指導に当たる教師(生徒会活動担当者)と教務主任等とが十分な意思疎通を図り、協力して、指導計画の作成・実施・評価をする必要があります。生徒会活動の活動内容の一つである「学校行事への協力」においても、教務主任等と生徒会活動担当者及び各行事の担当者が、それぞれの行事の目標達成に向けて、十分な協力体制を築くことが大切です。

改善のために教育課程評価が行われていますか

特別活動においても目標に準拠した学習評価が重要です。生徒の学習評価に当たっては、組織的・効率的に評価ができるような役割分担を工夫し、生徒の望ましい変容や進歩の状況を積極的に評価しましょう。また、学校全体で取り組む生徒会活動や学校行事については、それぞれの目標が達成されているかどうか、生徒の姿を基にした教育課程の評価を指導に関わる全教職員で行い、改善に生かしましょう。

以上のことを見直し、生徒が生き生きと活動し、 学級・学校文化を創る「特別活動」を充実させましょう。

作成協力委員

◎座長 ○副座長
(五十音順,敬称略)

※職名は平成26年3月現在

青木由美子 東京都武蔵村山市立第一中学校校長

酒巻克太郎 埼玉県加須市立加須東中学校教諭

◎須藤 稔 白鷗大学教授

濱本 眞也 愛媛県松山市立久米中学校教諭

石川 隆一 横浜市教育委員会指導主事

猿渡 正利 福岡県大牟田市立田隈中学校校長

中大路浩一 京都市教育委員会総合教育センター指導主事

○松田 素行 文教大学教授

文部科学省 国立教育政策研究所においては次の者が編集に当たった

勝野 頼彦 教育課程研究センター長

大金 伸光 教育課程研究センター 研究開発部 部長

沓澤 進 教育課程研究センター 研究開発部 研究開発課 課長

長田 徹 教育課程研究センター 教育課程調査官(生徒指導・進路指導研究センター総括研究官)

城戸 茂 教育課程研究センター 教育課程調査官(生徒指導・進路指導研究センター総括研究官)

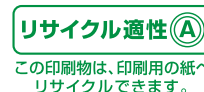
宮武 勲 教育課程研究センター 研究開発部 研究開発課 係長

伊倉 剛 教育課程研究センター 研究開発部 研究開発課 専門職

平成26年6月

文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

〒100-8951 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号 TEL. 03-6733-6833



この印刷物は、輸送マイルージン低減によるCO2削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。